

令和6年度 東村山市立小学校長会

本校長会は、小学校15校で構成されている。今年度も引き続き校長会のテーマを「創造と想像」とし、教育委員会や関係諸機関との組織的な連携を重視しながら、地区内の課題について協議し、諸課題の解決にあたっている。

1 校長会の運営組織

- 会長 小坂橋 悦子（久米川小）
- 副会長 大谷 憲司（野火止小）※都小学校長会地区代表幹事
- 対策部長 西田 智男（八坂小） 以上 三役
- 庶務部長 渡辺 毅（回田小）※都小学校長会地区会計担当
- 研究部長 日高 宏政（北山小）
- 市教研会長 野坂 純司（大岱小）
- 学校経営課題研修 金原 崇（化成小）
各部活動 — 全校長が「対策」「庶務」「研究」の各部に所属し、小学校長会の運営にあたる。
各種委員会 — 教育委員会主催の各種委員会などの委員長を務め、会の推進を行う。

2 校長会の活動内容

- (1) 小学校校長会（毎月1回、会場は15校もち回りで開催）
 - 会長会務報告、副会長都小報告をはじめ、各部からの報告と情報交換、また、当面する諸課題への対応を検討する。校長会研究の全体会、分科会を行う。
- (2) 小・中学校校長会（毎月1回、市教育委員会主催の定例校長会後開催）
 - 校長会全体での連絡調整と情報交換を主な議題とする。
- (3) 役員会（毎月1回、会長・副会長・対策部長・庶務部長〔会計厚生〕・研究部長・市教研会長、学校経営研修会長で組織、定例校長会後開催）
 - 教育課程、緊急課題への対応や労務管理に関する対策、学校経営上の課題への対応、校長会各部の情報交換と調整を行う。
- (4) ブロック校長会（年間3回程度時間内に開催、その他時間外に随時開催）
 - 15校を研究分科会ごとに分け、校長会研究の分科会を行う。
 - 校長会研究、情報交換、課題把握などを行う。
- (5) 市教委連絡会（月1回校長会長、副会長と教育長、部長、次長、課長、統括指導主事で構成）
 - 定例校長会の事前協議、当面の教育課題、市教委からの提案事項、校長会からの要望事項などについて協議する。
- (6) 東村山市教育研究会、学校経営研究会（年間を通して実施）
 - 市教育研究会への助言を行う。学校経営研究会で管理職候補・幹部教員に指導を行う。

3 特色ある活動

- (1) 研究活動 研究主題 「不登校ゼロに向けた組織的な支援の在り方」
～誰一人取り残さない個別最適な不登校対応の実践～
 - 東村山市では、昨年度中学校の出現率が東京都を下回ったり、小中ともに全国や都の増加率を下回ったりしたものの、不登校の児童・生徒数の人数、出現率、増加率には歯止めがかかっている。全国や東京都、東村山市小・中学校の教育課題でもある「不登校」について、校長がリーダーシップを発揮し、学校全体で組織的に対応していくことや不登校児童一人一人の状況に合わせた個別最適な支援は喫緊の課題である。そこで校長会では、「不登校ゼロ」に向けた学校教育の推進を図り、どの児童も笑顔で登校することができるようになるよう、上記の研究主題を設定し研究を進めることにした。
 - 部会を「組織・運営部会」「登校支援部会」「小中連携」の三部会に分け、研究を進めている。
- (2) 教育課題への取組（対策部の設置）
 - 市教委への施設や予算等の要望の取りまとめを行う。

4 課題

- 前年度までの校長会の研究の成果を各校の経営ビジョンの具現化に生かし、充実・発展させること。
- 校長会として、当面する課題に向けたリーダーシップのあり方を具体化・共有化すること。